

# 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

## つくばみらい市

### ●地域における現状・課題

- ・令和5年度の運動部活動の現状としては、市内で45の部活動があり、その内、運動部活動は37部活である。
- ・令和5年度の運動部活動の現状としては、市内の野球部で、4中学校のうち、3校で単独のチームを編成することができず、合同チームで大会に参加する形をとった。
- ・種目によって、部員数にも違いがあり、今後、部活動の種目の減少を検討する学校もある

### ●取組事項の概要

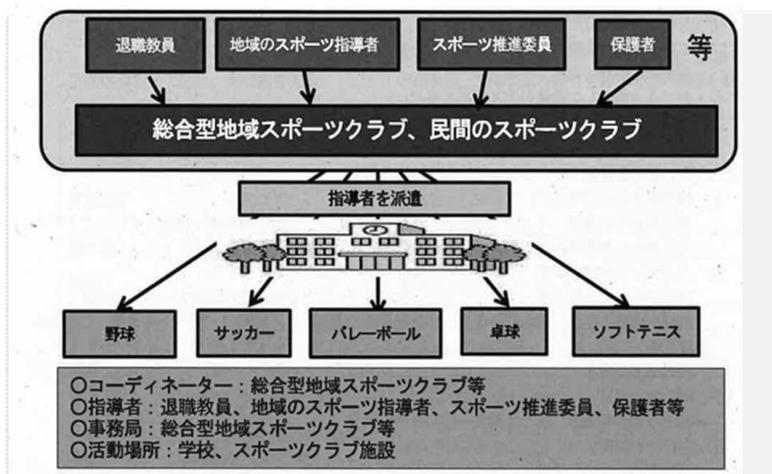
- ・年に4回の部活動改革部会の実施（関係機関との協議）
- ・部活動指導者講演会「これからの運動部活動のあり方」の実施
- ・「部活動の地域移行」に関するアンケートの実施（生徒向け、保護者向け、教職員向け）

### ●取組の成果、特に工夫した点等

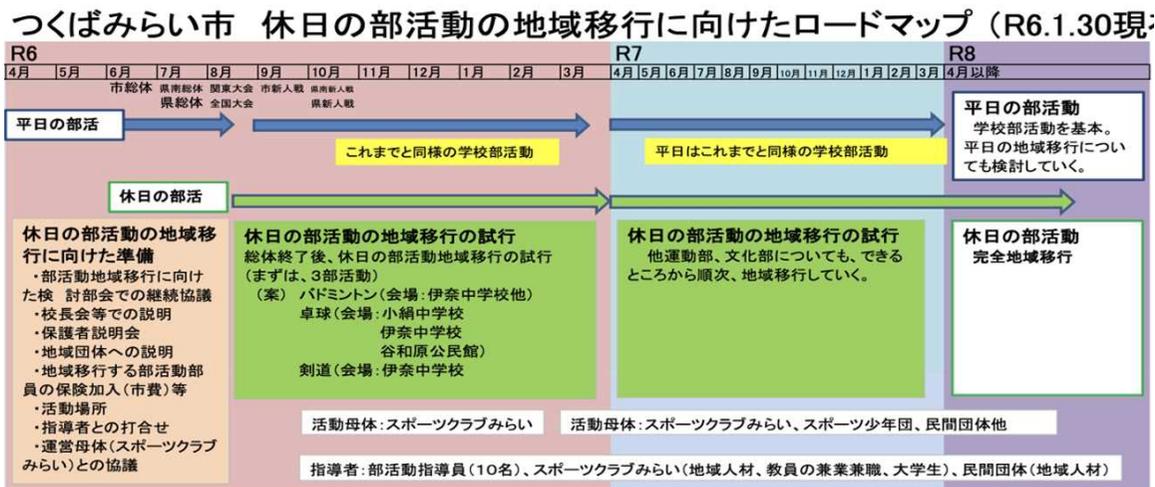
#### 【みらい型部活動改革の実施】

- ・令和5年度より、市内の全中学校の授業時数を変更し、週2日の5時間授業日を設定した。  
時間授業の日は、放課後の部活動を2時間実施できるようにし、活動の時間を確保した。
- ・生徒の下校時刻を毎日16：30（通年）とすることで、勤務時間内に部活動を終了することができ、教職員の働き方改革につなげた。

### ●運営体制図



### ●部活動の地域移行に向けたロードマップ



**【つくばみらい市】**  
**令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業**  
**（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

本報告書は、スポーツ庁の「令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一環として、茨城県が実施した「令和5年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果を取りまとめたものです。

# 1. 自治体の基本情報

## 基本情報

人口	人	部活動数	37部活
公立中学校数	4校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	4975人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

つくばみらい市には4つの中学校があり、その内2つの中学校は、生徒数が増加している。一方で、2つの中学校は生徒数が緩やかに減少しており、2極化が見られる。人口が増加している地区では、新設中学校の建設が予定されており、新設中学校における部活動のあり方についても検討する必要がある。

令和5年度の運動部活動の現状としては、市内で45の部活動があり、その内、運動部活動は37部活である。

令和5年度の運動部活動の現状としては、市内の野球部で、4中学校のうち、3校で単独のチームを編成することができず、合同チームで大会に参加する形をとった。種目によって、部員数にも違いがあり、今後、部活動の種目の減少を検討する学校もある。

中学生を対象に「今後やってみたい種目は何か」と、アンケートをとったところ、既存の部活動の他、ダンスや写真、将棋等の新たな種目に対する興味が高いことが把握できた。こうした子供たちのニーズに応えるためにも、学校単位でなく、地域で支援、活動できる体制を整えてあげることが大切である。今後は、様々な団体と連携を図る中で、地域で、子供たちの部活動を支える体制を検討していく必要がある。

## 本市の部活動加入者数

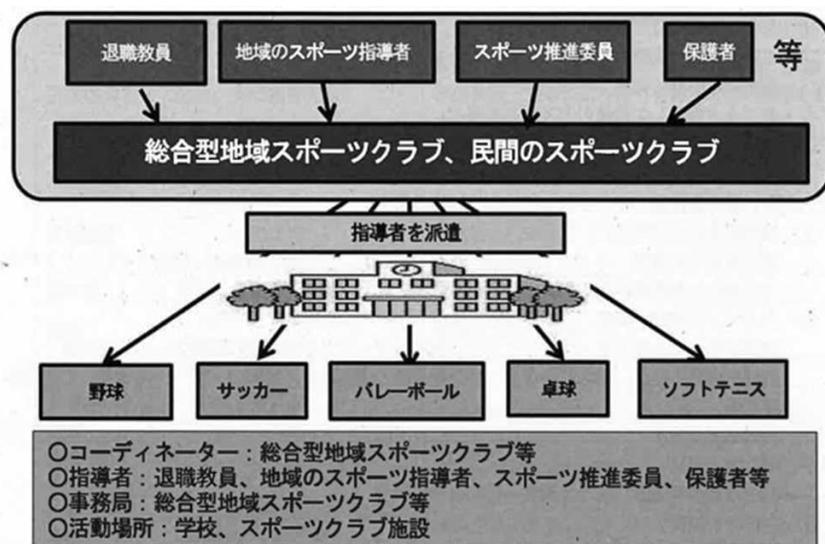
(主な部活動加入率) (人) (%)
バスケットボール部 109 (14.9%)
卓球部 108 (14.7%)
ソフトテニス部 103 (14%)
吹奏楽部 87 (11.9%)
バドミントン部 81 (11%)
サッカー部 73 (9.9%)
美術部 55 (7.5%)
バレーボール部 46 (6.3%)
野球部 42 (5.7%)
剣道部 24 (3.3%)

R4.12月アンケート調べ  
 (対象:市内中学1、2年生)

## 2. 実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ▼検討している運営体制図のイメージ



#### ▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**（教育指導課、生涯学習課スポーツ推進室）  
（教育指導課）  
学校部活動の現状を把握し、休日の部活動の地域移行に向けた案を作成する。  
地域の人材を発掘し、休日の部活動の任せられる指導者の確保（生涯学習課スポーツ推進室）  
地域のスポーツ少年団等との連絡調整  
部活動を地域移行した際の活動場所等の確保
- **首長部局**（財政課）  
部活動指導員、部活動の地域移行に向けた費用面での支援

### 年間の事業スケジュール

年に4回の部活動改革部会を実施

- ・第1回部活動改革部会  
日時：令和5年6月28日（水）14：00から16：30
- ・第2回部活動改革部会  
日時：令和5年9月25日（月）14：30から16：30
- ・第3回部活動改革部会  
日時：令和5年11月28日（火）14：30から16：30
- ・第4回部活動改革部会  
日時：令和6年2月26日（月）14：30から16：30

- アンケートの実施  
時期：令和4年12月  
対象：市内中学生（中1、2年）、中学生保護者（中1、2年）  
市内中学校教職員  
検証：中学生、保護者、教職員の意識調査
- 部活動指導者講演会「これからの運動部活動のあり方」  
時期：令和5年8月9日（水）  
対象：市内教職員、部活動指導員、部活動外部指導者  
地域のスポーツクラブ関係者  
講師：早稲田大学 中澤教授

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

- ・つくばみらい市部活動改革部会を実施  
構成委員：つくばみらい市教育委員会教育指導課、つくばみらい市教育委員会生涯学習課スポーツ推進室  
市中体連会長、市内各中学校の部活動主任、  
総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブみらい」クラブマネージャー

#### 取組の成果

- ・「休日の部活動の地域移行のあり方」アンケートの結果から、生徒、保護者、教職員の意識を分析、検証することができた。
- ・生徒のニーズに応えるためには、新たな指導者の確保が必要であり、また活動場所についても検討が必要なが確認できた。
- ・学校ごとに「部活動の地域移行」をするのではなく、地域が一体となって面倒を見る地域移行のあり方を進めていくことを確認した。
- ・まずは、種目を絞って、できる競技から地域移行の試行を進めることとした。

【次ページよりアンケート結果】

- ・現在、所属している部活動以外で、どのような活動をしてみたいと思いますか。(P.5)
- ・どんな活動、指導を受けたいですか。(P.6)
- ・どんな部活動なら、所属したいと思いますか。(記述式) (P.7)

※令和4年12月実施「休日の部活動の地域移行のあり方」より

#### 特に工夫した事項

- 地域移行のあり方を検討すると同時に、教職員の働き方改革を進めた。
- 【みらい型部活動改革の実施】
- ・令和5年度より、市内の全中学校の授業時数を変更し、週2日の5時間授業日を設定した。
- ・5時間授業の日は、放課後の部活動を2時間実施できるようにし、活動の時間を確保した。
- ・生徒の下校時刻を毎日16：30（通年）とすることで、勤務時間内に部活動を終了することができ、教職員の働き方改革につなげた。（冬季は下校時刻を16：20とした。）

【みらい型カリキュラムマネジメント】に関する満足度  
・中学校の教職員の意識調査 (P. 8)  
「みらい型部活動改革」の満足度は高いが、一部活動時間が減ったように感じている生徒、教職員がいる。

※教務主任向けアンケート（令和6年1月実施）

#### 今後の課題と対応方針

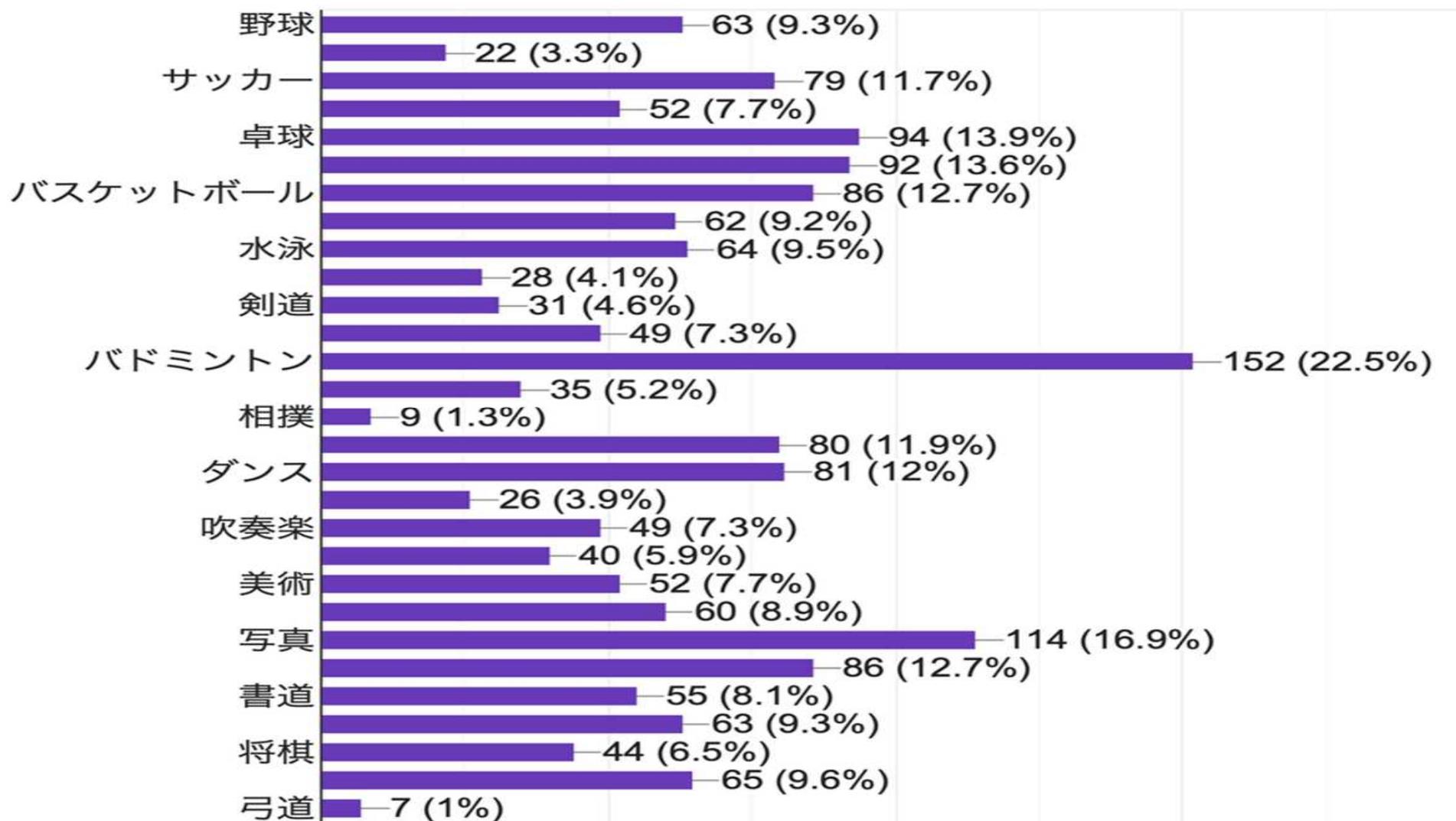
- ・地域部活動の指導者の確保
- ・兼職兼業を希望する教職員の把握
- ・活動場所の確保

## 2. 実証内容と成果

参考資料（生徒向けアンケート結果等 令和4年12月実施）

現在、所属している部活動以外で、どのような活動をしてみたいと思いますか。

（677 件の回答）

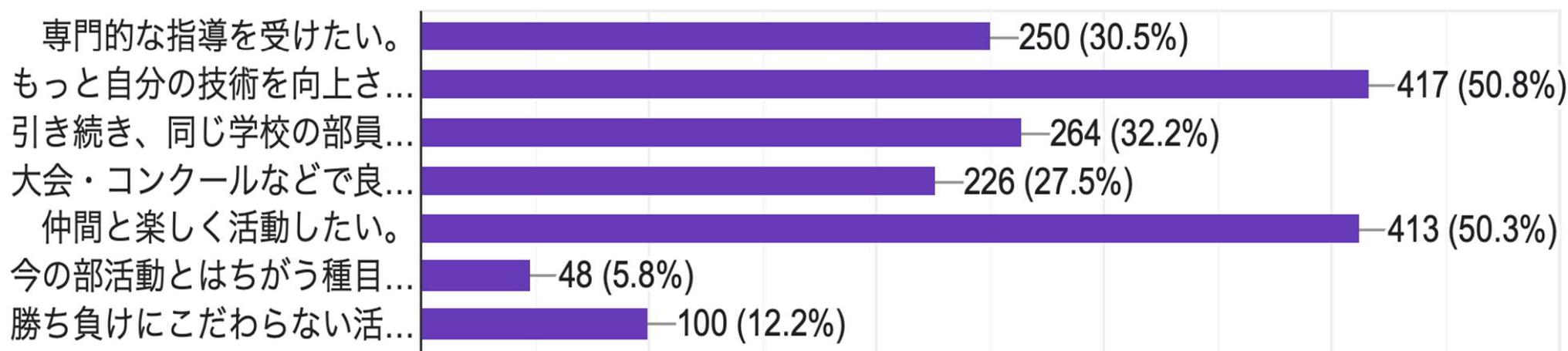


## 2. 実証内容と成果

参考資料（生徒向けアンケート結果等 令和4年12月実施）

学校部活動が地域部活動（教職員以外の指導者が指導する）の運営になった場合、どんな活動、指導を受けたいですか。

821 件の回答



## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（生徒向けアンケート結果等 令和4年12月実施）

どんな部活動なら、所属したいと思いますか。（記述式）

（例）良い成績を目指すために、どんどん練習したい。楽しく活動したい。など

（82 件の回答）

楽しく活動したい 楽しい 楽しく活動する バドミントン 帰宅部 演劇部 活動時間が短い  
強くなるために練習する 楽しく 学年関係無しにコミュニケーション取れる部活。文化部を増やしてほしい みんなでやる 勉強や自習が出来る部活ならやる。いじめなどが起こらない。料理部、漫画研究部 自分の好きなスポーツの部活 科学部 学力向上のため 玉拾い部 球技の方々の練習時間を少しでも増やしたいから 玉拾いで水泳 部活動には所属せず、自分のペースに合ったクラブチームや活動をしたい。質の高い練習 化学系 好きなことを部活にしたい。硬式野球 陸上部  
習い事の用事とかで休んでしまうことが多くても入れて、みんなと平等に接してくれる部活動  
楽しく出来る部活 部員の仲が良い 友達と仲良くやりたい 学校や市陸、県南などの長距離走で1位を目指す部活(陸上部) 実力を問わず楽しくできる部活 やる時はやるけど、楽しむ時は楽しむ。  
たのしい部活 ばれー テニス部 チーム全体で協力できる 仮眠部 探偵部 楽しく活動したい。  
みんな仲良い クラブチームより強いバスケ部 武道 演劇 楽しくゆるくある程度厳しく たのしくできる バスケ、テニス 良い成績を目指すために 楽しく活動  
顧問の良し悪しで変わると思いますその顧問の雰囲気部活の雰囲気も変わるからです  
コンピューターなどデスクでできる部活動 クラブチームに入っているのをそのことを考えてくれるチーム スクラッチ部 部活動もクラブチームもできているので特に不満はない。高校などにあるような、語学を学ぶ部活動  
楽しくしたい 歌を歌う部活 時間が短い部活 運動部  
自分の趣味に合った部活動が欲しい。文化部の種類が異常に少ない。生徒が少ない為、種類が少ないのは当然だろうが、だったら学区の見直しをして伊奈中学校へ通学している生徒を伊奈東中学校へ通学するように生徒数の均等化を図るべき 雰囲気が悪くない部活 科学部 イラスト部 楽しく活 できる部活 楽しい部活動 文章を書いて見せあったりする。

## 2. 実証内容と成果

参考資料（教務主任向けアンケート結果等 自由記述 令和6年12月実施）

「みらい型部活動改革」の成果や課題について感じることを書いてください。

（13名の回答よりまとめ）

（成果）

- ・先生たちから好評で大改革だったと思う。
- ・下校時刻が同じ日が多く、生活スタイルが確立されている生徒が多かった。
- ・大変働きやすいと多くの職員が感じている。
- ・職員の勤務時間が大幅に削減されました。ありがたい限りです。
- ・勤務時間の削減になった。
- ・部活動に熱心な先生も含めて納得感を持って取り組んでいる。
- ・退勤時間についても確実に早くなっている。

（課題）

- ・新人戦、総体時のみ、活動時間が少し足りないと思った。
- ・活動時間が減ったように感じている生徒、職員がいる。
- ・一部の部活をしたい先生への対応
- ・特にありません

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保証・量の確保  
**ウ：関係団体・分野との連携強化**  
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

- ・市外中学校での部活動に関わるすべての指導者を対象に「これからの運動部活動のあり方」講演会を実施し、部活動の地域移行のあり方について共有した。（令和5年8月 講師：早稲田大学スポーツ科学学術院 教授 中澤篤史）
- ・総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブみらい」との協議

##### 取組の成果

- ・市内の教職員に対して、部活動の地域移行についての方向性を伝えることができた。
- ・「スポーツクラブみらい」と学校との情報共有のあり方と強化していく必要性がある。
- ・指導者の確保と教員の兼職兼業の必要性の共有
- ・課題が山積みである。まずは地域移行の試行が必要である。
- ・

部活動指導者研修会の参加者アンケートより  
・研修会の内容の満足度（P10）  
・参加者の感想（自由記述）（P11、12、13）  
（まとめ）  
・地域移行を早く進めてほしい。  
・部活動をしたい教員の気持ちの尊重してほしい。  
・受益者負担の金額等の検討がさらに必要である。  
・地域で見守っていく体制の構築してほしい。

##### 特に工夫した事項

- ・夏期休業中に部活動指導者研修会「これからの運動部会のあり方」の実施
- ・市内の部活動に関わるすべての関係者を対象に対し、部活動の地域移行の必要性について共有することができた。
- ・つくばみらい市ならではの地域移行のあり方を検討する必要性があることで一致した。

##### 今後の課題と対応方針

- ・教職員に対する「部活動の地域移行」に関する情報の提供
- ・兼職兼業を希望する教職員の把握等
- ・「スポーツクラブみらい」と学校との連絡体制に強化

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（アンケート結果等）

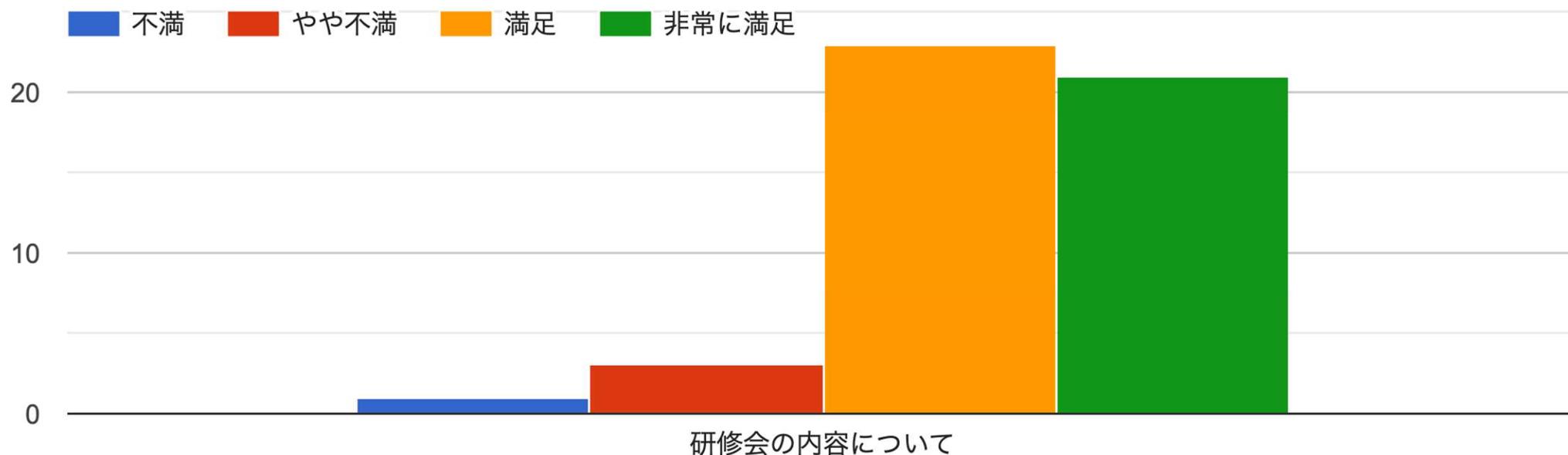
#### 令和5年度部活動指導者研修会

日時：令和5年8月9日（水）午後1：30から4：30

会場：つくばみらい市 きらくやま世代ふれあい館

対象：各小中学校校長または副校長、教頭、部活動担当者、部活動指導員、外部指導者  
地域スポーツクラブ関係者

参加人数：67名



【本日の研修会の内容について、どのように感じましたか】

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（部活動指導者研修会アンケート結果 自由記述等）

部活の地域移行に向けて早急な対応が必要であると感じました。さらなる地域移行の詳細の具体がもっと知りたいと思いました。中澤先生、具体的な情報や方向性を示していただきありがとうございました。

移行のスピード感や指導者の質等で、地域格差が心配です。

大変参考になりました。とても興味深い内容でした。地域移行するのはありがたいのですが色々細かい(大会運営など)こととかどうなるんだろうという気持ちがあります。また土日に部活がない生活をどうすればいいのだろうという気持ちもあります。

信頼できる外部指導者の方が必要。そのために金銭面の検討や研修の在り方などを工夫することが必要だと思います。

これからの地域移行が気になるが、部活はやりたい。

本日の講演を聞き、これからの部活動のあり方について、しっかりと考えなければいけないと思いました。生徒の声を聞きながら、教員として大切にしたいとことのバランスを考えて指導していきたいと思います。

地域移行によって、働き方改革につながる先生たちは存在すると思いますが、それ以上に問題が起きたり、部活をやりたい先生たちのやりがいや損なわれたりすると思う。

予算や人材確保が一番の課題だと考えます。やっぱり教員にお願いするしかない、とならない事を願っています。

この取り組みに対する予算を拡充させ、信用できる人材の確保、十分な活動箇所の設置、保護者の理解を得ることが最優先だと思う。何もかもが中途半端で、これまでと変わらない規模で新しいことを実施しているので、教員の負担軽減には全く繋がっていないように感じる。

部活動指導を希望しない教員が指導しなくてもよいという状況を作って欲しい。私は絶対に部活指導をしたくない。

地域移行または学校以外で管理するのがベスト 1 持続可能性重視 2 地域の雇用の創出 3 教職員の確保 の順で そのために 1 9000億円の有効活用 2 時間的余裕の確保 が大切 2は、すぐに地域の指導者は現れないが、10年過ぎればそれを目指す人、それを支えるシステムができる。効果がないとすぐに廃止しないことが大切

地域移行に向けて、市のスポーツ推進室が主体となり移行を進めていただけたらと思いました。また、今日の講演の中で中澤先生が仰っていたように、地域移行と並行して部活動のダウンサイジングなどの改革を進めていくことが大切だと思います。

兼職兼業を推進したい。生徒の自主的意思と教員的意思決定両方大切にしたいです。

平日、休日の活動を地域移行していく中で、大会運営等も地域移行していきたいです。

地域移行をする上で課題となるのは指導者の人材を確保することだと思います。人材を確保するためにはそれ相応の対価が支払わなければならないと思います。しかし、現時点で教員の部活動指導に対して相応の対価は支払われていません。この現状で地域人材を確保できるとは思えません。そもそも、部活動指導に対して適切な報酬が支払われるのならば、部活動指導に対する負担が減るのに...と個人的に思います。

地域移行にできたと思うが、やはり指導者の確保が難しいなと感じています。色々な面でクリアできて、生徒も教員も納得する部活動にしていきたいと思いました。

地域移行として、部活動指導員を起用しても、平日は教員の指導が必要となっています。現在では部活動指導をするにあたっての、自己研鑽の時間が十分に取れていません。クレーム等につながり、部活動指導を苦痛だと感じてしまうことがあります。教員も苦痛を感じず、働きがいを感じながら部活動指導を行うためには、業務の軽減や人員の増加が必要だと感じています。

本日の講演を聞いて、部活動の地域移行には本当にたくさんの課題があることが、改めて分かりました。子供を中心に据えた話し合いが進められることを願います。

部活を含む残業代の金額が言われていましたが、地域移行すれば生徒は地域のクラブなりなんなりに支払うお金が発生すると思います。新しい負担になり、部活動に参加出来なくなることはありませんか。また、その金額を地域(行政)が負担するならば、その予算を教員に手当として出すようなことは行われませんか。公務員には色々縛りがあるのならば、例えば市の大会で外部から審判を要請したときは謝金が出ますが資格を持っている教員には出ません、そんなちょっとしたことを変えることは出来ないのかなど。労働条件などがからんでくると厳密に扱わなければならないのかなど。教員は元々生徒の為に部活やっていたところも大きいので、話が大きくなり過ぎている気がして。取り止めがなくてすみません。

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（部活動指導者研修会アンケート結果 自由記述等）

部活動に対する専門性がない教員が人材不足によって顧問をやむを得ずやっている状況もある。子どもたちのためにも、その部活動の専門性のある地域人材を有効活用するべきであると考えます。

部活動に参加する生徒は、部費を市内で統一した金額を払い、顧問の手当ての補助とする。顧問の成り手確保につながると考える。

本日はありがとうございました。地域移行に賛成です。が、いろいろな考えをもつ保護者が多いので、その折り合いをつけるのが大変だと思います。なるべく早い移行ができるよう、よろしく願います。

先生への対価が支払われることが必要だと思います。地域移行ありきではなく、それ以外の方法も視野にいれ、実情にあった改革が行われてほしい。

地域移行は賛成である。しかし、たくさんの課題があるのも事実である。その1つとして、地域で子どもたちを育てるという意識が必要だと思う。その意識を社会全体でもてるように進めなければいけない。そのために、今学校ができることについて、考えたい。

人材確保、生徒対応、練習時間の問題など課題は山積しているが、部活をやりたい子どもが平等にやれる環境の整備が必要だと思った。

今まで長年部活動に携わってきたが、正直、家庭は母子家庭状態だった。家内は、かつて自分も部活動で顧問に世話になったので、恩返しと我慢してくれていたが、子供らが自立した今、振り返って大変だったと話している。生徒のためと言われて頑張ってきたが、休日の部活動の地域移行が進み、家庭の時間の確保、休養の確保ができることは、これからの学校を担う教師にとって大事なことだと思います。地域での受け皿を確保する事は、様々な要素が絡み難しい問題だと思いますが、ぜひ実現してほしいと思います。

完全実施までに段階をふんで進めていくべきだと考えます

地域移行を確実に進めるためには、ロードマップやそれに対する予算、人的配置、保護者や児童生徒の理解が必要ではないかと思えます。また、地域移行には、生活困窮家庭への支援、勉強は今一だが運動大好きな子どもたちを取り残さない事も大切かと思われま。

教員の働き方改革の視点で考えると、地域移行は助かります。また、競技経験のない教員が運動部の顧問をもつ現状を踏まえると、生徒にとってもより専門的な指導を受けることができ、技術力の向上も見込めると思えます。が、どの競技もすべて部活動指導員が見つかるのか疑問が残ります。学校部活動も過渡期にきていますが、教員、生徒、家庭のことをそれぞれ考えると難しい問題だと感じています。この度はこのような研修会の機会をいただき、ありがとうございました。

3-10でも書いてあるが、教師の時間外労働は原則禁止であるなら、新人戦だ総体だの大会で集合開始時刻などが7時などに設定されている資料をつくばみらい市教育委員会等の名前を使って要項を出している矛盾についてどう考えているのか。また3-19で基本的に学校外が担うべき業務を市教委やスポーツ推進室は学校に丸投げしている現状(地域移行に関するクラブ探し、スポーツ推進室主催の大会運営を教員がやらされる)では地域移行は進まないように感じる。実際、最後の質問の時間には、部活を生き甲斐とする教員と部活を外部に任せたい教員との温度差を改めて感じる時間となった。学校主体で移行は完全に不可能であり、市教委や県教委などのまとめる組織が良いリーダーシップをもって強く方針を出してくれないことには地域移行は10年20年経っても進まないまま終わるだろうと諦めている。

貴重な時間をありがとうございました。従来行われてきた世界でも例がないような日本の部活動への取り組みが、中学生の健全育成に大きな効果をもたらしていたことは私も明らかな事実と感じていますが、それが勤務時間外に教員を働かせる理由にならないことも同時に当然のことと強く感じています。これだけ時間外勤務が問題視されている今もなお、どうしても現場では「休日練習をあまり入れてくれない先生はやる気のない先生」といった空気を生んでしまうことが、生徒間でも、保護者間でも、職員間でも珍しくないことで、これらの周囲からの圧力によって、私たち教員が「部活動は教員の自主的な活動」という本来の解釈をする余地は実際のところほとんどないと感じています。また、仮に部活動がほぼ完全に「地域移行」され、「希望する教員は兼業できる」というシステムが確立したとしても、これまでのコミュニティー、繋がり(保護者・同僚)の存在を意識してしまうが故に、兼業の「断りづらさ」のようなものは依然として残り、判断に迷う、戸惑う教員は一定数出てきてしまうと思います。困難が多い中で、これだけ私たち教員のために日々尽力されている方々には感謝しかありません。未来の教員、生徒たちのために、引き続きよろしく願います。

まだまだ難しい課題だと思いますが、生徒にとって何がよいのか、考えてその時の最善が出来ればと思います。

今回の研修を通して、生徒・保護者・教員・地域、それぞれに立場や考え方に差があるので、全員が全て納得しながら進めて行くのは難しい事案であることを改めて感じました。だからこそ、それぞれのバランスを考えたり、妥協点を見つけていくことの大切さも感じました。

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（部活動指導者研修会アンケート結果 自由記述等）

中澤先生のお話は、根拠をもとに分かりやすく、大変参考になりました。ありがとうございました。小絹中は、部活動指導員が5名おり、そのうち1名の方は平日も休日も活動していただいています。ただ、この方のように平日もという難しいかもしれませんが、休日だけであれば地域の方で指導して下さる方がたくさんいらっしゃるのではないかと思います。特に卒業生であれば、母校のために、或いは、つくばみらい市のために尽力していただけるのではないのでしょうか。卒業生でなくとも、スポーツを続けている方で、その楽しさや技術を子供達に伝えたいと思って動いてくださる方はいると思います。まずは、財源の確保とともに、広報活動（地域の人財をいかに発掘するか）にかかっていると思います。たくさん希望者が出てくださることを期待しています。一方、部活動がやりたくて中学校の教員になったという先生方も本校には結構おります。兼業、兼職の制度を整えて、部活の好きな先生にはやりがいを持って部活に励んでもらえたらと思います。ただ、心配な点は、土日を別組織とすることで、活動時間が増加することが予想されます。それにとまって、①活動時間の増加による生徒への負担と、②先生方の実質の勤務時間が増えることによる健康被害等が、考えられます。特に②については「合わせれば80時間越え」はなきにしもあらずです。何事もなければ良いのですが、本人が好きでやっていることであっても、何かあった時、特に学校で倒れたとなったとき等の責任の所在はどうなるのでしょうか？非常に微妙な問題です。他にも、顧問と外部指導者との指導方法の違いにより生徒が困惑することや生徒指導のしにくさ（早期解決に動きにくい）、保護者の学校への信頼関係がどう変わるかと言った問題もはらんでいます。そのための連絡調整のための時間をどう確保していくかということも大切です。傷害保険等も活動場面によって変えなくてはならないのではないかと思います。慎重に進めていかないと、働き方改革のための部活動地域移行が、子供も大人も疲弊したということになりかねない気がします。誰にとってもウェルビーイングな学校となるように視野を広く持って考えていければと思います。今後、どうしていくかの話は、話し合うメンバーをもう一度吟味して、様々な角度から行ったほうが良いと思います。というか、どのメンバーで、話し合いがどこまで進んでいるのかもよく分からない状況で申し上げており、申し訳ありません。子供、保護者、教員、地域の方々等、みんなのためにより良い部活動となるようによりよろしくお願いいたします。長々とすみませんでした。研修会、大変お世話になりました。ありがとうございました。

地域移行につきましては、保護者や生徒の気持ちを大切にしていきながら、進めていけたらと思っています。

休日の部活動の担い手をどうするか。なるべく早く方針を考える必要があると思います。また、特に文化部に関しては、教員の兼職兼業によらざるを得ないと思います。この点での制度設計と財源に関しても、早く検討すべきと思います。現在の市の検討体制で、文化部がどの程度考慮されているか、不安です。

成功事例や失敗事例をもう少し聞いて検討したい。

部活動ごとに、どこが、どのくらいのキャパシティで受け入れてくれるのか、どのような内容で受け入れてくれるのかを調査し、話し合いをしていくことが必要だと考えています。半年先、1年先、2年先と計画を立てて進めていく必要もあると思います。

部活の練習を楽しむって大切だと思いました。私たちの時は、辛いものを負わずにどうやって乗り越えるか考えましたが、辛いものを楽しむための方法が人生に繋がると考えました。

部活動の地域移行は困難な課題も多くあると思いますが、一歩ずつ進めていかなければならない問題であると思います。

丁寧な資料とわかりやすい説明ありがとうございました。今までの考えを改めて、新しい受け皿での持続可能な仕組みづくりは、時間がかかるように感じました。しっかりと話し合いの場をもつことが大切だと思いました。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保証・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

##### 取組事項

- ・令和4年12月に「休日の部活動の地域移行に向けて」のアンケートを実施した。保護者向けアンケートの質問項目に参加費用負担額についての質問を設け、保護者の意識調査等を実施した。
- ・休日の部活動の地域移行に向けた研修会等で、他自治体等の取り組みを参考に、受益者負担額の検討を行った。

##### 取組の成果

- ・343人を対象としたアンケートの結果、回答者の70%が休日の部活動を学校部活動から地域の指導者による指導へと移行するという改革について賛成または、どちらかという賛成と回答した。
- ・これまで学校の先生が指導することで得られていた安心感が、地域指導者になったことで、どうなるのか不安であるという回答も見られる。
- ・指導者の質の確保が課題である。
- ・受益者負担額については、さらなる研究が必要である。

##### 保護者向けアンケートの実施 (令和4年12月)

- ・保護者の地域移行に対する考え方  
概ね賛成(約70%) (P15)
- ・月毎に支払っている費用負担額の調査 (P16)  
約60%の家庭が1000円以下であった。  
約20%の家庭が5000円以下であった。

##### 特に工夫した事項

- ・次年度の受益者負担額を市費負担とした。
- ・次年度以降 (R6からR7)については、休日の部活動の地域移行期に当たる。この期間は地域移行に係る受益者負担額 (講師謝礼金、生徒保険金) を市費負担を検討している。

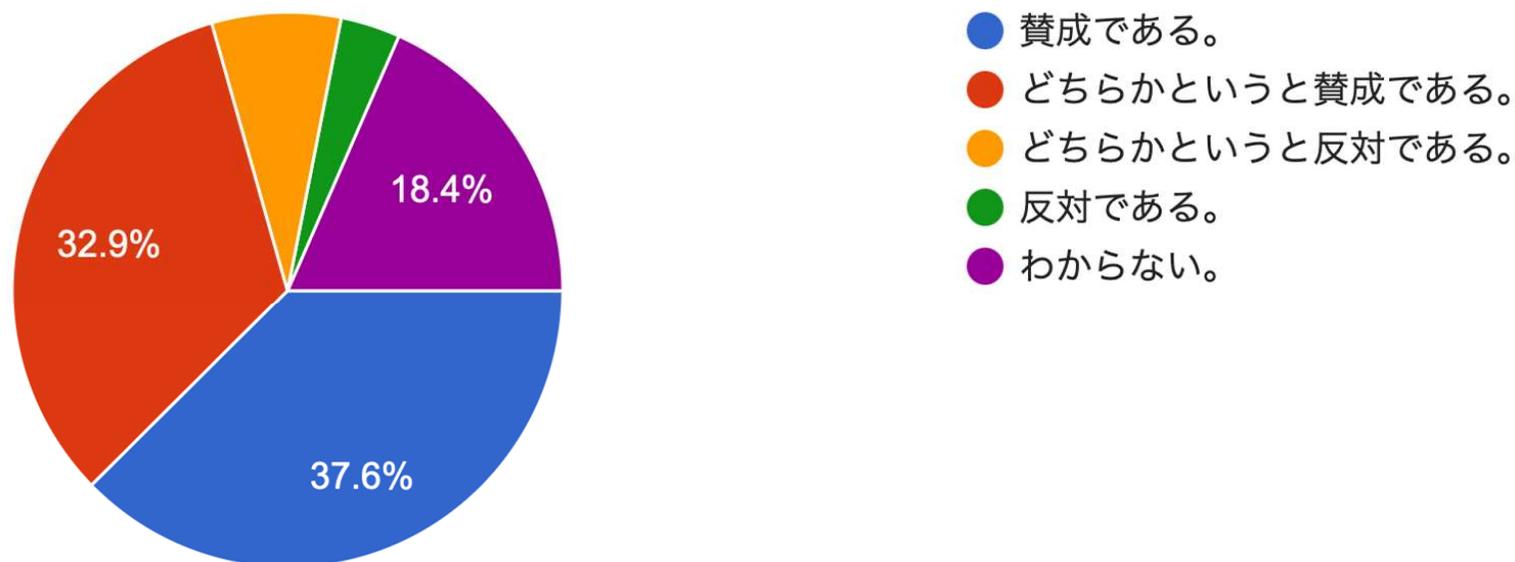
##### 今後の課題と対応方針

- ・次年度は、受益者負担分を市費負担としたが、今後の受益者負担額については、検討が必要である。
- ・持続可能な部活動にするために必要な経費の試算
- ・地域部活動の運営母体である「スポーツクラブみらい」の組織の強化

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（保護者向けアンケート結果等）

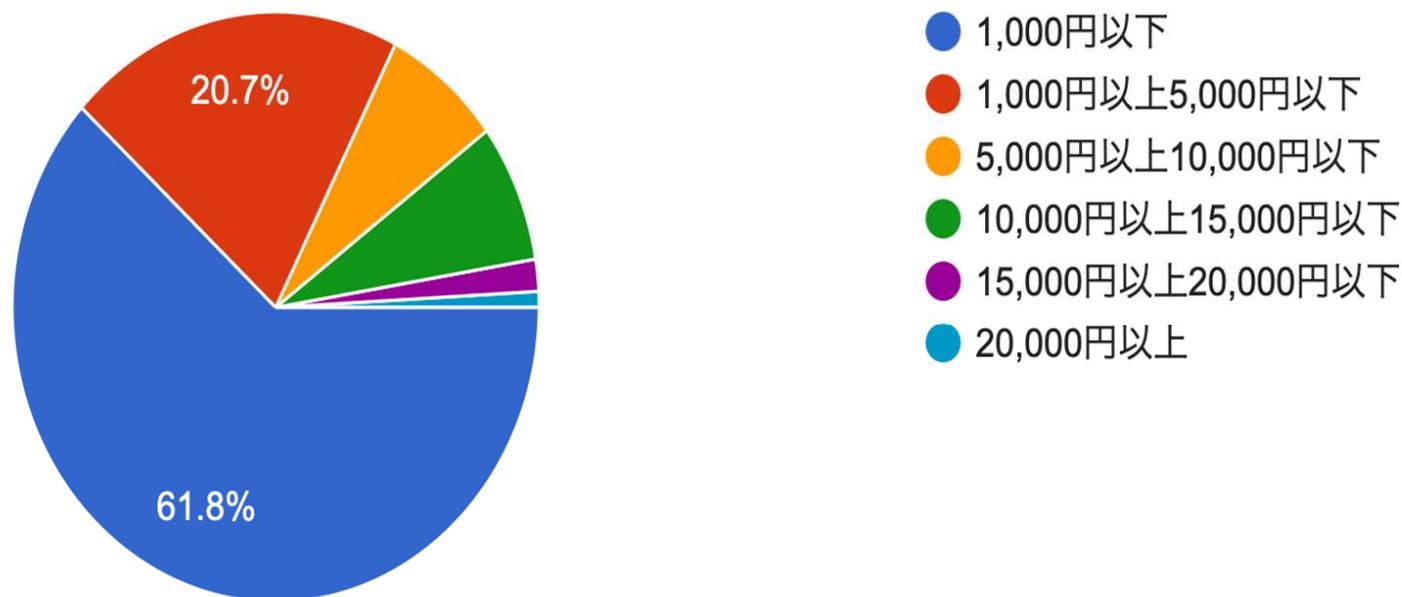
これまでの部活動は、学校の教職員により運営されてきましたが、このことが教職員の負担となっている現状があります。そこで、国は令和5年度から段階的に休日の部活動を学校部活動から地域の指導者による活動へ行こうと改革の方向性を示しています。このことについて、次のうち、保護者の皆様の考えに近いものを選んで下さい。（回答343名）



## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（保護者向けアンケート結果等）

現在所属している学校部活動や地域クラブで、月ごとに支払っている費用負担額を以下から選んで下さい。（回答343名）



## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（活動写真）



【部活動改革部会の様子】

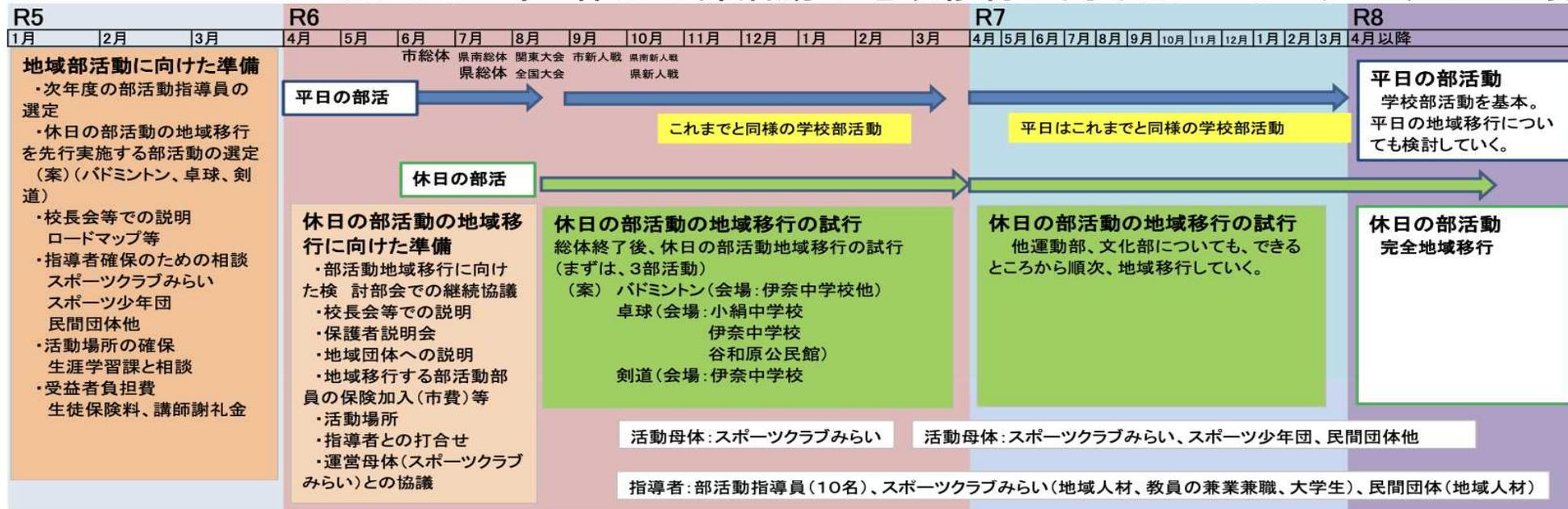


【R5.8.8 部活動指導者研修会「これからの運動部活動のあり方」の様子】

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

### つくばみらい市 休日の部活動の地域移行に向けたロードマップ (R6.1.30現在)



- R6休日の部活動の地域移行の先行実施(案)
- 地域移行の試行部活動(案)
    - バドミントン
      - 指導者(スポーツクラブみらい)
      - 会場:伊奈中学校
      - 実施日:土日のいずれか(3時間)
    - 卓球
      - 指導者(部活動指導員3名、スポーツクラブみらい、地域人材)
      - 会場:小絹中学校、伊奈中学校、谷和原公民館等
      - 実施日:土日いずれか(3時間)
    - 剣道
      - 指導者(部活動指導員2名、スポーツクラブみらい)
      - 会場:伊奈中学校、総合運動公園研修道場等
      - 実施日:土日いずれか(3時間)
  - 実施時期 令和6年8月から(総体終了後)
  - 受益者負担分について
    - R6は、保護者の費用負担はなし(R7も同様に考えている)(以下は市費負担)
    - 講師謝礼金 1600円/時間
    - 生徒スポーツ保険(休日)(800円×3部活動人数分)(学校の保険は適用外のため)

- 今後の検討事項
- 兼職兼業について
    - 部活動の指導を希望する教員等の把握
    - ※「公立学校の教師等が地域クラブ活動に従事する場合の兼職兼業について(手引き)」について(通知)(参考)教改第963号 令和5年3月31日
  - 指導者の確保について
    - 地域人材の確保(市内スポーツ少年団含む)
    - 茨城県の人材バンク
    - 民間の事業所等の協力
  - R8年度以降の受益者負担について
    - R8年度以降、クラブ活動に係る費用は、受益者負担が原則
    - 月額負担額の検討(スポーツ保険料含む)
    - 困窮家庭への支援の検討
  - 運営母体との連絡・情報共有
    - 総合型地域スポーツクラブ(スポーツクラブみらい)との情報共有
    - 地域のスポーツ団体との情報共有
    - 民間の事業所との情報共有
    - 地域企業との連携